

落葉のひみつ

山の秋は足早に過ぎていきます。木々が赤や黄色に色づいたかなと思う間もなく落葉が始まります。木は、なぜ冬の間、葉を落としているのでしょうか。

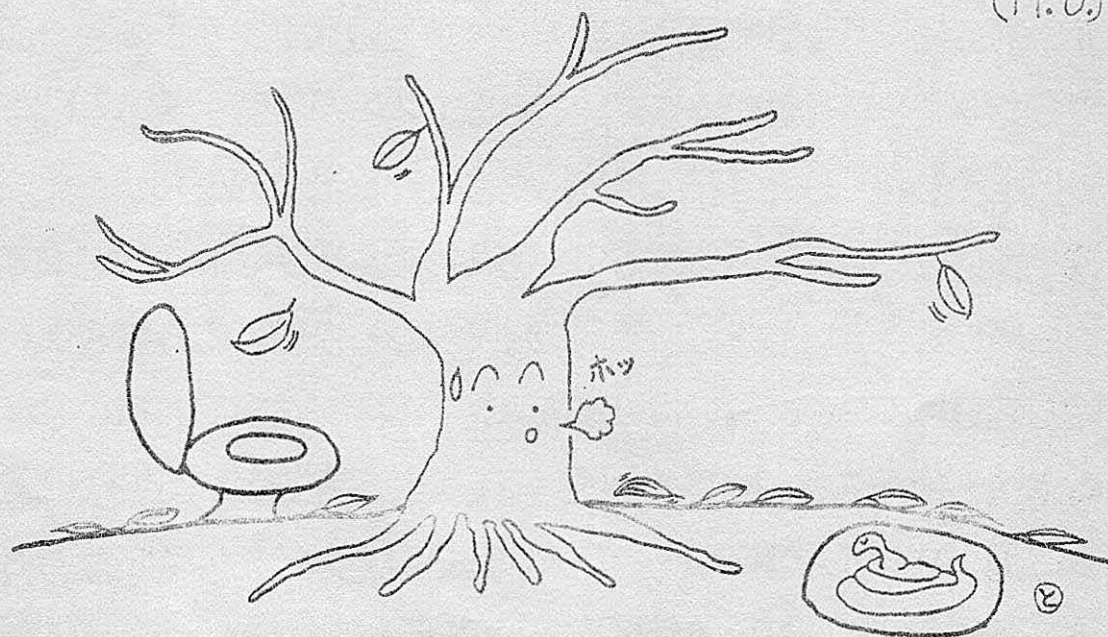
季節の変化がはっきりしている温帯や亜寒帯では、植物にとって寒い冬をこすことが、とても大切な問題です。気温が低くなると、葉で栄養分を作る能率が悪くなってきます。また、葉は植物の体から水を蒸発させるはたらきをしますが、冬、雪がつもったり地面がこおったりすると、植物は根から水分を吸収できず不足をおぎなうことができなくなります。さらに、冬の植物は、眠っているように考えられていますが、実際はたくわえた養分を少しずつ使いながら寒さに、耐えているのです。冬の間も栄養を使うわけですから、寒さで、はたらかない葉をつけているとよけいに養分を使わなくてはなりません。つまり植物は、冬の間、仕事もしないで養分と水分を使う葉を、みずから切りすててムダをはぶいているのです。

さて、せっかく春に作ったたくさんの葉を秋に捨ててしまうのは、ちょっともったいないような気がします。しかし、葉を捨てることによって植物は、もう一つのとても大切なことをやり終えることになるのです。私たち人間もふくめて、すべての動物では物を食べるということにつきまとして、体の中でいらなくなったものを外

へ出すということを行います。では、植物では？動物の食べることにあたるのは、根からの吸収です。根は、土のなかの水分といっしょにいろいろなものを吸収します。それらを体の中で使っているうちに、いらなくなったものがたまってきます。これをためておくところが葉なのです。つまり、植物が葉を落とすことは、動物でいうウンコをすることにあたるわけですね。それも1年に1回だけ。失礼！

樹木には、落葉樹と常緑樹とがあります。落葉樹は、一時期まったく葉をつけなくなる木で、常緑樹は、葉の寿命が1年以上で葉をまったくつけない時期がない木のことをいいます。常緑樹にもちゃんと落葉があって、普通春に多く行われています。

(M.O.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和60年11月1日発行